

報告書抄録

ふりがな	
書名	
副書名	
巻次	
シリーズ名	京都府遺跡調査報告集
シリーズ番号	第153冊
編著者名	
編集機関	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
所在地	〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40番の3 Tel. 075(933) 3877
発行年月日	西暦2012年3月31日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "		m ²	
ながおかきょうあとうきょうだいせんはち・せんにじゅうさんじ・まつだいせき 長岡京跡右京第1008・1023次・松田遺跡	おとくにぐんおやまざきちょうえんみょうじまつだ・しもうえのいっちょうだ 乙訓郡大山崎町円明寺松田・下植野一丁田	26303	71 23	34° 54' 20"	135° 41' 33"	20100918 ～ 20110309、 20110419 ～ 20111115	2,000	道路建設
やまざきのつあとだいじゅうななじ 山崎津跡第17次	おとくにぐんおやまざきちょうあざおおやまざき 乙訓郡大山崎町字大山崎	26303	19	34° 53' 32"	135° 41' 04"	20101214 ～ 20110218	800	道路建設
げばいせきだいよんじ 下馬遺跡第4次	そうらくぐんせいかちょうしもこまこあざかたやま 相楽郡精華町下柏小字片山	26366	30	34° 46' 27"	135° 47' 12"	20101101 ～ 20110128	800	道路建設

備考：北緯・東経の値は世界測地系に基づく。

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
長岡京跡右京第1008・1023次・松田遺跡	古墳	弥生	竪穴式住居跡	弥生土器	
		古墳	竪穴式住居跡	須恵器・土師器・フイゴ羽口・鍛冶滓・緑色凝灰岩	
		奈良末～平安初頭	溝・掘立柱建物跡・柵列	土師器・須恵器・陶磁器・鉄器・鉄滓・フイゴ羽口	
		中世	井戸・土坑・溝	土師器・須恵器・瓦器・中国製陶磁器	
山崎津跡第17次	津跡	中世		土師器・須恵器・緑釉陶器・瓦器・瓦質土器・陶磁器・瓦	文字瓦・墨書土器
下馬遺跡第4次	集落跡	縄文	土坑	縄文土器	
		古墳	自然流路	土師器	
		奈良	自然流路	土師器・須恵器	
		中世	掘立柱建物跡・柵列・土坑・溝・木棺墓・自然流路	土師器・瓦器・瓦質土器・陶磁器	

所収遺跡名	要約
長岡京跡右京第1008・1023次・松田遺跡	<p>弥生時代中期の竪穴式住居跡の検出は、松田遺跡の周辺遺跡を含めても初めての検出で、下植野南遺跡で方形周溝墓群を形成した造墓集団の集落の可能性もある。また、弥生時代後期の平面形が八角形でベッド状遺構を有する住居跡を検出した。ベッド状遺構を有する多角形住居は播磨地域に多く認められることから、その地域との関連がうかがわれる。古墳時代前期では、竪穴式住居跡を検出した。弥生時代中期以降、集落が営まれ続けていることを確認した。古墳時代後期では、4基の竪穴式住居跡を検出した。調査地周辺の下植野南遺跡や算用田遺跡・百々遺跡を含めて、広範囲に同時期の集落が形成されていたことを追認した。出土遺物に緑色凝灰岩があることから玉作り工房、鍛冶滓・フイゴ羽口があることから鍛冶工房が存在していた可能性がある。</p> <p>奈良時代末～平安時代初頭の掘立柱建物跡や溝などの遺構は、今回の調査地の南側及び南西で同時期の遺構が検出されている。建物群は南北方向に造られていること、規模が大きいこと、広範囲に配置されること、瓦が出土していることから、一般の住宅とは考えにくい。長岡京の京域がこの地域まで整備されていた、長岡京期～平安時代の山崎津関係の施設、平安時代に「長岡京南」へ移された山城国府などの可能性が想定される。また、鍛冶滓・フイゴ羽口が出土していることから鍛冶工房が存在していた可能性もある。中世では建物跡は特定できなかったが、井戸や土坑が検出され、西側の右京第997次調査で確認された屋敷地の東限と考えられる。</p>
山崎津跡第17次	<p>顕著な遺構は確認されなかったが、出土遺物は中世を中心に土師器、須恵器、緑釉陶器など多彩であり、「由□」と線刻された瓦や「大」と墨書された白磁碗もみられる。これらの遺物がほとんど摩滅していないことから、付近に港(津)に係わる施設あるいは集落があった可能性が高く、この周辺が「山崎津」の一角を占める地点であることが想定される。</p>
下馬遺跡第4次	<p>縄文時代晩期の土坑や古墳時代・奈良時代の自然流路、平安～鎌倉時代の掘立柱建物・柵列・溝・自然流路・土坑・木棺墓を検出した。縄文時代についてはこれまで自然流路しか確認されていなかったが、今回土坑が見つかったことにより同時期の集落が存在する可能性が高まった。また、中世については、昨年度に引き続き建物群を確認し、片山遺跡と合わせて集落の様相が明らかになってきた。</p>